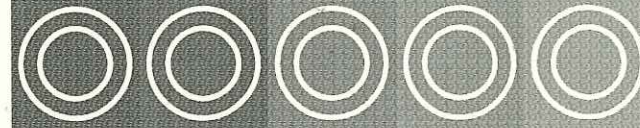


創世ホール通信 No. 278

催し案内 + 文化ジャーナル
 2018年3月1日発行 ■北島町立図書館・創世ホール
 電話088・698・1100◎ファクシミリ088・698・1180
 771-0207◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎



東北応援チャリティ公演 大地のうた⑧ ～光～

3月4日(日) 14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●1500円(前売当日共)

出演●阿部一成(篠笛、元鼓童)、竹繁文章(津軽三味線、吉野川市)、高橋宏徳(剣舞)、桧獅子舞保存会(獅子舞、鳴門市)、鴨島鳳翔太鼓(和太鼓、吉野川市)、亀本美砂(インド古典舞踊)、武田仁美(ソプラノ)、小川典子(ソプラノ)、川真田加穂里(ソプラノ)、粟田美佐(ピアノ)他
 主催●東北応援・プロジェクトあい(村澤☎090・1171・7353)

徳島英語ミュージカル 徳シング(TOKUSING)

3月10日(土) 15時～17時

会場●3階多目的ホール

入場無料

出演●県内外外国語指導時助手の方々

日韓若手音楽家交流コンサート トリオ・ルミエール

3月24日(土) 14時30分～

会場●3階多目的ホール

入場料●2500円(前売当日共)

出演●松村茜(ピアノ)、ユ・ミリ(ヴァイオリン)、キム・ミンジ(チェロ)
 特別出演●キム・ミョウソン(韓国伝統舞踊)
 演奏予定曲目●「ピアノ三重奏曲第2番 変木長調D929」(シューベルト)ほか
 主催●日韓若手音楽家交流委員会(連絡先●アヤメ基金徳島支部・小松☎090・8693・1118)

第19回大阪音楽大学同窓会 《幸楽会》徳島県支部演奏会

3月25日(日) 14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●1000円(前売当日共)

出演●川添衣利(ピアノ)、上原慎太郎(ピアノ)、中谷華奈子(フルート)、大田黒翔子(サクソフォン)、増成春奈(ピアノ)、坂東麻友子(フルート)、石川真子(ソプラノ)、梅田悠月(ピアノ)
 演奏予定曲目●「フルート・ソロのための小品」(イペール)、「カンタービレとプレスト」(エネスコ)、「動物の謝肉祭」(サン・サーンス)、「お前を讃える栄光のために」(ボノンチーニ)、「ダンス」(ドビュッシー)ほか
 主催●大阪音楽大学同窓会《幸楽会》徳島県支部(小島☎090・5274・4543)

3.11映画祭in徳島2018 / 渡辺裕也監督作品 「ハッピーアイランド」上映会

3月11日(日) 2回上映

①13時～ ②15時30分～

入場無料

会場●2階ハイビジョン・シアター

■今年も3.11映画祭開催! ■災害の記憶は歳月とともに風化しがちです。しかし2016年の熊本地震、17年の九州北部豪雨など災害は一層身近になっています ■東日本大震災から7年。今なお風評被害に悩まされる現地の実情を、ドラマを通じて知っていただき、被災地支援と連帯につながることを私たちは願ってやみません ■図書館では危機情報管理課と連携し、各種防災についての資料展示を1階カウンター前で開催します。

3.11映画祭

in 徳島 2018

無料 ※開場時間より先着順



7年目の3.11に
私たちは今、何を思う。

災害と向き合う映像作品上映会

今年も3月11日がやってきました。月日と共に災害はどんどん風化され、現地から遠く離れるとまるで何事もなかったかのような日常が過ぎていきますが、2016年の熊本地震や2017年の九州北部豪雨など、災害はもっと身近なものとなってきました。2011年の震災から7年の月日がながれ、今尚風評被害に悩まされる現地の実情をドラマを通じて知っていただき、未だ復興がすすまない地域にご支援頂けましたら幸いです。

上映作品



監督: 渡辺裕也 / 2016年 / 75分
 吉村界人 萩原聖人 大後寿々花
 三輪江一 中村尚輝 岡村多加江

日時

2018年3月11日(日)
 ①開場12:30 / 開映13:00
 ②開場15:00 / 開映15:30

会場

北島町立図書館・創世ホール
 2階ハイビジョン・シアター
 (徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91)

お問い合わせ

■日本コンパクトディスクビデオレンタル商業組合 徳島事務所(チャーリーブラウン内)
 ……TEL.088-679-9776 担当: 神農(かんの)
 ■北島町立図書館・創世ホール ……TEL.088-698-1100 担当: 小西

【主催】 日本コンパクトディスクビデオレンタル商業組合 【共催】 北島町立図書館・創世ホール
 【特別協賛】 ARL フリーマガジンARL 【特別協力】 hifi 福岡インディペンデント映画祭 【企画・制作】 徳島あおい映画祭

笑福亭たま・旭堂南湖二人会⑪

3月24日(土) 14時～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売/大学生・一般1500円、小・中・高校生1000円(当日各500円増)

出演●笑福亭たま(上方落語家)、旭堂南湖(上方講談師)
 演目●落語「源平盛衰記」ほか1席(お楽しみ)、講談「曲馬団の女」ほか1席(お楽しみ)

主催●たま・南湖二人会実行委員会(☎088・698・1100)

■毎度おなじみ上方演芸界を背負う2人のプリンス笑福亭たまと旭堂南湖(きょくどう・なんご)、ついに迎える11回目の二人会。今回も超満員必至! 健康増進・抱腹絶倒! お見逃しなく!



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

サエキけんぞう氏講演会を終えて

■2月4日に開催したサエキけんぞう氏講演会「日本にロックができるまで〜ムッシュかまやつ、大瀧詠一、加藤和彦」には220名の来場者があり、盛会となった。忘れない内に、そのこぼれ話などを思いつくまま、メモしておきたい。

■今回の成功は、いくつかの広報の仕掛け等が面白い具合に絡み合い予想以上の展開（広がり）を見せたことにあると思われる。

■南海電鉄の沿線情報誌「NATTS」2017年12月号にカラーで講演会の告知が掲載された。即座に何件か大阪の人から問い合わせがあった。そのうちのお一人（堺市在住）は、実際に催し当日にフェリーとバスを乗り継いで来場された。この情報誌掲載は、アピック社長の寺田成氏の英断による。町は一切広告費を負担していない（お礼は私のねぎらいと感謝の言葉）。

■寺田氏は、南海電鉄から単身赴任で徳島に出向されている人で、ご自宅は堺市にある。徳島駅前にあった南海グループの商業施設《とくしまCITY》の中にTSUTAYAがあった関係で徳島県内のTSUTAYAは、南海電鉄グループのアピックと言う会社が運営しており、寺田さんはその会社の社長なのだ。音楽などの趣味や、異端文学や周辺文化を好む傾向が小西と非常に波長があったので、創世ホール講演会や坂田明さんや遠藤ミチロウさんの催しに応援いただき（開催時にポスター掲示をお願いしている）、全国のレンタルビデオ業界団体が社会貢献の一環で取り組んでいる「3.11映画祭」についても提携して当館2階ハイビジョン・シアターで開催したりしている（同映画祭の町の経費負担はゼロ）。そういう背景があり、今回うまく関西圏の南海電鉄沿線で広報展開ができたわけだ。これはさらに、TSUTAYA田宮店でのINSTA・イベント（2月3日）にもつながっていった。

■サエキさんは、催し前日（2月3日）の午前10時過ぎの飛行機で徳島入りされることになっていた。事前連絡の中での要望は2点。入念な会場下見を行なうことと、昼食は名麺堂（徳島市常三島のうどん店）に立ち寄ることであった。それ以外は身体を空けておくので、前パブでも後パブでもご随意にお引き回しください、ということになっていた。

■思案して、親しくしているFMびざんの山口雅人プロデューサーに相談の電話をかけたなら、即断即決で「では、インタビュー収録をしましょう。その日は、局は休みですが、午後から私が待機して録音しましょう」と心強いお言葉をいただいた。これでうどん店の後の日程は決まった。

■FMびざんの番組は、金曜正午から13時迄の「レインボーMIX GOGO」で、寺田さんと2回出演した。1月26日が事前告知。2月16日は40分間のサエキ氏インタビューを挟んでの生放送と言う形態で、催しの思い出を語った。

■前述のとおり寺田氏からはサエキさんの日程調整さえつけばTSUTAYA田宮店で早い時期からの特設コーナーの設置と前日のINSTA・イベントのお申し出があった。INSTA・イベントは、2月3日のFMびざんでの番組収録後、午後4時から行なうことになった。

■徳島のタウン誌老舗『あわわ』でも記事にさせていただいた。取材に来たのは、私が昔『あわわ』で書評欄を担当していた頃、一番長く担当を務めて下さったS藤氏だった。気が合って、小西自宅に原稿を取りに来た日は最長で4時間ぐらい情報交換をしていたことがある（「スケバン刑事」の話をよくしたと思う）。記事は、同誌2018年2月号に掲載された。

■1月17日に図書館カウンター前に設営した講演会関連展示のコーナーは、

翌日「徳島新聞」社会部の記者の方の取材を受け、26日に大きく記事が掲載された（「徳島新聞」朝刊社会面）。記事の反響は大きかった。この宣伝効果が絶大で、今回の催しの広報展開の要（かなめ）となったとおぼしい。

■このほかに町のHPは当然として、うんと早い時点で青林工芸舎がブログで、詳しく宣伝展開して下さったことは、誠にありがたかった。

■中古レコード店への広報展開も必須だった。県内ではジャクソング（徳島市）、県外では大阪のフォーエヴァー・レコード（なんば）とマルカバツ、神戸のハックルベリー（元町）にポスター掲示等を依頼した。ハックルベリーでポスターを見て興味を持ったという大阪の人からの電話もあった。

■特別協賛いただいた徳島大学歯学部への支援もありがたかった。歯学部教授でサーファーの方がいるのだが（『歯科医のロック』参照）、その方は奥様とお嬢さんと3人で来場された。また軽音楽部の後輩の方も参加された。

■いつも当館の催しを応援して下さっている歯科医師の齋藤好史氏は県内歯科医師会のネットワークで講演会情報を流したため、歯科医師会と直接関係がない情報は流さないでほしい旨、注意を受けたという。リスクを冒してまで応援いただき感謝に堪えない。

■INSTA・イベントのトーク・ショーは寺田さんがサエキさんに質問する形で進行し、サエキさんの大学時代ネタ、軽音楽部ネタ、徳島時代ネタがてんこ盛りで、60分の予定が90分になった。客席には、元軽音部の女性がおられて終了後にごあいさつされていた。驚きの再会があったわけだ。

■2月3日の夜は、サエキけんぞうさんを囲む会を駅前のお店で開いた。サエキさん、小西、新聞社の人2名、放送局の人1名、名麺堂の泉氏、アピック寺田氏、元ラモーンズ・ファンクラブの館山氏、T建材の富登氏（火だるまボーイズ）、軽音部の後輩氏など、全12名。

■囲む会は夜9時半頃終了。私は本番のあいさつ原稿執筆があるのでそのまま帰宅したが、サエキさんと何人かは、両国橋そばのアップタウンに移動された。彼は徳島時代、アップタウンでも作詞仕事をやっていたとの由。アップタウンのマスターは、律儀にも翌日の講演会に駆けつけて下さった。

■2月4日は朝から雪が降り続けていたので、ちょっと心配だったが昼にはやんだ。私は、10時にサエキさんの宿舎に行き、フロントで待機した。富登氏がサンドイッチを届けてくれた。前の晩、泉氏や富登氏と某コーヒー店のサンドイッチの話をして懐かしがっていたのだそう。

■宿舎を出て、雪の中、鳴門市ドイツ館に向かった。車中、サエキさんはサンドイッチを食べていた。ドイツ館の森館長は、遠藤ミチロウ・ライブにも来てくれたし、サエキさんの音楽も知っている柔軟な人である。館長じきじきの歓待を受け、展示解説もして下さった。館の展示物を見てサエキさんは感銘を受けていたようだった。そしてもちろん森館長は、この日の午後創世ホールに足を運んで講演会を聴講して下さったのだった。

■昼食は、北島町役場前のホトトギスでオムライスを食べさせていただいた。

■書籍販売はいつものように地元のかとう書店にお願いした。サエキけんぞう・中村俊夫『エッジな男 ムッシュかまやつ』（リットーミュージック）はじめ、かまやつさんの文庫本『ムッシュ!』（文春文庫）、加藤和彦さんのインタビュー集『エゴ』、『大瀧詠一読本』の4点である。で、1月にお会いしたときサエキさんからCDの物販の相談を受けていた。その大きな荷物が2月2日に届いた。少年ホームランズ、ハルメンズ、パール兄弟、ジョリッツ、初音ミク（サエキ氏関係）などのオフィシャル盤はもちろんだが、コミック・マーケット会場での販売作品なども物凄くある。サエキさんはここ数年コミック・マーケットに自ら出店し、自主制作CDをたくさん販売しているので、その珍しいもの（徳島では入手しがたいも

の）が大量に含まれていた。CDは40種類以上あり、少ないもので1点、多いもので10点という具合で平均すると3枚前後が多かっただろうか。合計100点以上商品があった。金額が異なるし、さらにおまけ特典として5千円以上購入者にプレゼントするCDも数種類ある。これは、きちんと対処しておかないと当日大混乱が生じる可能性が高い。私は、急きょ残業し、1枚1枚に付箋を貼って値段付けをした。この作業は意外と神経を使い、緊張した。急きょ寺田氏と堀江裕郎氏（徳島ロック・ストリート仕掛人、当時シネマサンシャイン北島社員）に相談、CD物販コーナーの販売ボランティアを依頼した。だからその日は、シネマサンシャインの人とTSUTAYAの人が、無償でCD物販売り場に立って汗を流しておられたのである。

■サエキさんは、「ラストにミニ・ライブをやりましょう」と申し出てくれた。全体の進行をどうするか、かなり悩んだ。例年の講演会ならば、司会者（小西）が開会あいさつして、主催者あいさつ（2分）、講師紹介（2分）、講演（90分）、お礼の言葉（2分）と言う段取りなのだが、今回はライブがあるので、全体の流れを損なわないように（盛り上がったままで）催しを終える必要がある。従って、お礼の言葉は省略、講師紹介の後はサエキさんにフルに舞台を務めていただくことにした。当初は、講演90分+ミニ・ライブ25分、全2時間で16時半過ぎには終了という計画だった。サイン会をして、17時に会場撤収、途中、松茂町の徳島ラーメンの店に立ち寄り18時に空港到着するのが理想的な計画だった。だが、もちろん、そんなにうまく物事が進むはずがないのであった。

■当初90分の予定だった講演は2時間になり、ライブが約30分、ステージ上の催しがすべて終了したのが、17時であった。物販コーナーはごった返し、サイン会の行列が長く続いた。サエキさんは一人一人とていねいに触れ合い、会場を撤収したのが18時だった。空港到着は18時20分頃、何とか出発30分前には大きな荷物を預け搭乗手続きが完了。出発ロビーがある2階に徳島ラーメンの店があるので、そこで10分で食事を終えたらぎりぎり間に合う。サエキさんがラーメンを食べ終わった時に、係員が「サエキさん、あとお一人になっています」と手荷物検査ゲートに連れて行ったのだった。私はまだ食べかけていたので、そこでお見送りしたのであった。

■講演は誠に魅惑的な内容だった。導入部分からして凄い。ビートルズ「抱きしめたい」のイントロ部分を素材に、本家のものと東京ビートルズ版「抱きしめたい」と熊本男爵版「抱きしめたい」を聞き比べ、ロックのリズムの特性と言うこと、楽譜では表せないリズムの力点の置き方を詳細かつ分かりやすく解説し、ムッシュかまやつはじめスパイダースの人たちはそこをしっかりと聞きこんで分析し理解していたのだという冒頭部分から、聴衆をぐいぐい引き込んでいった。「サエキくん、ロックはね、ここにポイントがあるんだよ」と言う趣旨のかまやつさんの言葉も紹介され、どよめきがおこった。また、大瀧詠一氏とサエキさんはよく電話で長話をしていて、ときには深夜に5時間も音楽の話をしてきたこと、ある時「日本のバンドで、はっぴいえんどの先輩格のバンドを挙げるとしたらなんになりますか」という問いかけに大瀧さんは約2分間沈黙し、「スパイダースかなあ」とつぶやいたというエピソード、また「宿命の男たち／六本木キャンティを挟んで」と言う項目では立木リサ&今野雄二のシングル盤「気分を出してもう一度／20才の頃」は2曲の作詞が安井かずみで、A面の作曲者が加藤和彦、B面がかまやつひろしであることなど、ぞくぞくさせる貴重な証言が満載だった。今回の催しは、この時期に、南海電鉄グループの寺田氏、FMびざんの山口氏などが徳島に存在したからこそ実現できたと言えるかも知れない。関係各位に深く感謝する。（2018年03月06日脱稿 文責=小西昌幸）